

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

1 イタリア

学位取得者の海外流出

-In Giappone abbiamo aperto la nostra scuola. Troppo difficile vivere in Italia-

2 EU 支部だより

—卒業—

- ・夢
- ・就職が困難
- ・人を守る

イタリア 学位取得者の海外流出

-In Giappone abbiamo aperto la nostra scuola. Troppo difficile vivere in Italia—
(2015年3月18日 Il FattoQuotidiano)

ラウラ・マッカーリ 28歳とダニエレ・レオーニ 32歳は、日本の九州福岡に1年半前から生活し、イタリア語スクールを経営している。彼らによると「私達は一緒に生活したいし仕事も一緒にしていきたい。大学を卒業し学位も取得している。しかし、イタリアではスクールを開くといった夢の実現が難しかった。それが福岡では叶ったのだ。」ラウラは「私は、現在、30歳前で彼と暮らし経済的にも自立している。それ自体イタリアでは難しいことだった。だから日本に来た。そして、なんと、ほんの数日で私達は、長年の夢を実現したのだ。」と。

ラウラは、日本人の母とイタリア人の父を持つ、いわばダブルの女性である。両親はイタリア在住だが、彼らの夢であるスクールを開くには、イタリアはあまりにも道のりが険しかった。それは、山のような書類の提出、高額な費用や税金の支払、さらに、何度も何度も公的機関に足を運ばなければならず、開業手続きに何年かかるか見当もつかない。といった現状だったからである。

現在、イタリアでは、多くの若者たちが海外へ移住している。そのほとんどが、高学歴者である学位取得者だ。イタリアでは、産業の衰退、オートメーション化、高賃金等から学位取得者の就職が困難だからだ。

自国の経済、産業を守ることも大切だが、頭脳や夢といった人を守ることも重要だ。人の満足なくして国の満足もないのではないだろうか。

EU 支部だより —卒業—

・手紙

・就職活動

3月13日、私が勤務している大学でも卒業式を迎えた。大学内にある式典用の大ホールで行われた卒業式は、看護師になる学生たちや、一般企業で営業職や事務職につく学生たち、そして、教員や公務員となっていく学生たちで、誇らしく、そして、華やかに、執り行われた。

その卒業式の朝、私はある女子学生から手紙を受け取った。キャリア教育や支援を行っている私と彼女とのつきあいは1年を超えていた。進路について迷っていた彼女は、自分の気持ちに向き合い真剣に将来を考えていた。だからこそ迷いも深い。私は、そんな彼女の思いを一つひとつ聴き、彼女自身が自分で考え自分で決めていくことができるよう自律的な意思決定を支援してきた。その彼女の手紙には「誰に相談しても結局は他人事でした。しかし、二転三転する私の思いにその都度熱心に取り組んでくれたのは、先生だけでした。だからこそ納得できる結果を得ることができたし、辛かったけど孤独ではなかった充実の就職活動ができました。本当にありがとうございます。」と彼女の一年にも及ぶ思いが心を込めて書かれてあった。その時、涙を浮かべながらも喜びと満足感で彼女の顔は輝いていた。卒業式を迎え新たな人生を歩み始める彼女は、この春から警察官となる。(松原)

